

いずみのひるば

2024年 10月号
日本基督教団札幌教会
NO. 548 教会学校

「天の国のたとえ」

マタイによる福音書 13:44-50

教会では、マタイによる福音書に耳を傾けています。

「天の国のたとえ」には、3つのことが書かれています。

1つ目は「畑に隠された宝」、2つ目は「良い真珠」、3つ目は「魚」。

『畑に隠された宝』と『良い真珠』

当時は、両方とも、見つけたら、自分の持っている全ての財産を売り払ってでも手に入れたいものでした。これは、いくらお金を積んでも、お金じや計り知れない価値が天の国にはあるということなんです。

『魚』のお話

聖書には、このように書かれています。

また、天の国は次のようにたとえられる。網が湖に投げ降ろされ、いろいろな魚を集める。網がいっぱいになると、人々は岸に引き上げ、座って、良いものは器に入れ、悪いものは投げ捨てる。世の終わりにもそうなる。天使たちが来て、正しい人々の中にいる悪い者どもをより分け、燃え盛る炉の中に投げ込むのである。悪い者どもは、そこで泣きわめいて齒ざしりするだろう。

イエス様のたとえ話...種を捲く人や毒麦やこの魚のお話を聞くと、私なんかは、どのたとえ話でも、だめな側になってしまおうと感ずるのです。

確かに立派な信仰をお持ちの方も多いらしいやいます。

ですが、大半の人にとって、聖書を開いて読んでみる、教会に来て説教を聞く、そんなとき、「あー自分あかんわ」と思うことのほうが多

いのではないでしようか。

私たちは、救われるための条件は何か、という考え方にとらわれ

ていませんか？

私たちの救いは、私たちがどういう条件を満たしたら与えられる、というものではありません。主イエス・キリストは、私たちが救われるための条件を設定されたのではなくて、私たちが罪人を愛して下さり、私たちの罪を全て背負って十字架にかかって死んで下さったのです。そのキリストの真実、神様の愛こそが私たちが救うのであります。そして父なる神は、その主イエスを復活させて、私たちと出会わせ、キリストを私たちの内に生かして下さっているのです。

(おはなし 霜野直紀 先生)

